

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490100225		
法人名	社会福祉法人 誠真会		
事業所名	グループホームながしま		
所在地	三重県桑名市長島町福吉268-8		
自己評価作成日	令和6年 9月 17日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kihon=true&amp;JizvosvoCd=2490100225-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kihon=true&amp;JizvosvoCd=2490100225-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年 10月 11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個々の利用者にあった生活支援を行い、その人らしい生活を送れるように援助している。隣接する医療機関や介護保険施設とも連携を図り、医療体制並びに要介護状態においても協力体制が構築されている。また夜間においても往診と隣接の施設と組織的に連携が取れるように体制を整備している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

国道23号線の揖斐長良大橋の名古屋側北西部で、母体の法人が運営する老健施設、長島中央病院、保育園等が林立する中に3ユニットの事業所がある。1階建て1ユニットとその隣に2階建ての2ユニットがあり、グループホームとして設立されてからは21年が経過している。施設長・管理者・各ユニットの主任・副主任と役職があり、職員に不安が生じた時、相談を受けた上司が助言しサポートする体制が確立されている。何時でも相談しやすい環境は年齢差のある職員間の雰囲気良くし、職員の退職は少なく働きやすい職場になっている。その雰囲気は利用者にも伝わり、職員に助けられながら趣味を楽しみ和やかに過ごしている。『日々の生活に笑顔を』という理念に沿った支援がなされている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に『理念目標』『自己研磨』『行動規範』を掲げている。	法人の理念『日々の生活に笑顔を』とグループホームの理念「その人の今を大切にする・その人の暮らしを守る・その人の最後まで寄り添う」は事業所をよく目に付くタイムカードの上に掲げ、理念に沿った支援を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月に保育園、学童、グループホームで夏祭りの予定をしていたが、台風、コロナが重なり延期になった。 散歩の時など、地域の方と挨拶を交わしている。	今年度は8月に予定していた夏祭りが中止となり、隣接する施設で開催された地元中学の吹奏楽部の演奏会に参加した。秋のハローウィンには保育園の園児たちが来訪する行事を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接施設内にある喫茶コーナーにて交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所でのサービスの取り組みを報告している。又、包括や民生委員の方からの意見や助言を運営に反映させている。	2か月毎に居宅・通所リハビリの事業所と合同で開催している。今年度9月から民生委員の参加があり地域密着の話題が増え、活発な意見交換がなされている。今後は家族に参加してもらえよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当との窓口は施設長、管理者が行っており、そこから情報をもらっている。	市の職員には運営推進会議に参加してもらい、事業所の支援について理解を得ている。特別に相談等がある時には施設長・管理者が連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルがあり、玄関はいつもオープンで施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。携帯での研修も継続して行い身体拘束についてのレポートも提出している。	身体拘束廃止委員会は3か月毎に、施設長・管理者・各ユニットの主任で開催し、その結果を職員に伝達し共有している。コロナ禍以降携帯電話を使って各職員がそれぞれ可能な時間に研修できるようにし、振り返りのレポートを提出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても携帯で研修を行いレポートを提出している。日々、職員内で話し合いを行い全身状態を観察し注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修で権利擁護に関する制度について学んだが、現在は成年後見人制度を利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、不明点についてはその都度回答している。管理者と担当職員によるオリエンテーションを行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは何でも話し合える関係作りに努めており、電話や面会時に現状説明をしている。その際に伺った意見、要望に対し日々のケアに反映している。	コロナ禍では、玄関先で家族の面会を行ってきたが、最近では居室でゆつくりと面会できるようにしている。その際担当の職員が利用者の日常の様子を伝えている。	家族は利用者が何を食べ、どう過ごしているか知りたいものである。月毎・季節毎などに『便り』を作成して行事や利用者の様子を伝え、より理解・協力が得られることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より出た意見、要望をまとめ管理者と主任との会議を行い、反映できるように努めている。	職員間の連絡・相談は主に毎朝の申し送りで行っている。日々の業務の中でも常時意見交換し、何かあれば日誌に記載して検討している。職員の意見はいつでも出しやすい雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	おやつ作りやレクリエーション、掲示物、誕生日会の設定など、それぞれの得意分野でより活躍出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で一人ひとりが毎月研修を受けレポートを提出している。現在、グループホームから2名実践者研修も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	しっかりと感染対策を行い、外部研修等に参加し勉強する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを密に取り、不安や要望に耳を傾けて、早く慣れていただけるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、困っていることを傾聴し、一つ一つ解決する努力をして、信頼関係を気付いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のニーズを尊重しながら検討、支援しており、選択肢の多いサービスを心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	能力に応じて自立した日常生活を送れるよう、利用者と職員が共に支えあっている関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	身の回りに必要な物品の調達をお願いしたり、こちらで購入したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が居室で出来るようになりゆっくりと会話を楽しまれている。お盆は1名家族の方と外出された。	コロナ禍以降家族以外の面会は殆どない。家族との外出・外食・実家への帰宅等の申し出があれば許可している。馴染みの美容院で毛染めをする利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分勘感情等、日々の変化を観察、見守りし、性格や相性を考慮して、誰一人孤立する事がなく快適に過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約は終了しても、これまでの関係性を大切にし、相談等があれば支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、コミュニケーションを計り要望の把握に努めている。職員間で情報共有し、本人の気持ちに寄り添った支援を行っている。	耳の遠い利用者とのコミュニケーションには耳元でゆっくり話したり、ホワイトボードを使い筆談することもある。利用者に寄り添い思いが汲み取れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報を職員間で共有し、日頃の会話を大切にして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況、状態を見守り観察している。本人の出来ることを引き出し、自分で出来る事を増やせる様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝、夕の申し送り時に気付きを挙げながら、月一回モニタリングシートを作成している。そのモニタリングを元に目標達成度を検討して介護計画を作成している。	担当の職員が毎月モニタリングと評価を行っている。介護支援専門員は2か月毎に確認し、6か月毎に担当者会議で利用者の現状に見合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや状態変化などの場合はその都度、申し送り時に検討して記録を付け、見直しに繋がるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズを尊重しながら検討し、その都度家族と話し合い、意向、要望に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターから地域資源等の情報を得ながら、一人一人が安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度主治医の訪問診療があり、歯科も口腔内検診、口腔ケア指導があり、随時受診している。他科受診は家族に依頼しているがスタッフによる代行も行っている。	入居時に協力医が主治医となり、月2回の訪問診療を受けている。受診結果は家族に電話で報告している。看護師の巡回もあり何でも相談できて職員や家族にも不安はない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の報告と共に情報や気づきを伝え、常に相談できる状態であり、早急な対応が取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	隣接病院と連携しており、情報交換や迅速な対応に努めており、病院の看護師、相談員との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族との面談を持ち、事業所で出来る事、入院の場合の治療法などを説明し、意向を伺い、出来るだけ希望に沿うよう入院または看取りに備えた支援を行っている。	毎年2～3名の看取りをしている。入居時に将来の方針を本人・家族に確認している。いよいよ終末期を迎えた時に担当者や家族で話し合い、看取りとなればできるだけの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルがあり、担当看護師や医師との連携を保っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、災害時に利用者の安全確保と避難誘導方法を身に付けることができるよう努めている。	毎年春・秋の年2回周辺施設と合同で消防署を交えて災害時の避難訓練を実施している。春には火災想定で行い、水消火器で消火器の使い方などを実践した。備蓄は3日分と非常時の薬の持ち出し袋などを用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不穏な状態や咄嗟の場合でも、大きな声で声掛けしないなど、相手の立場になって考え接している。入浴時、トイレの利用時にはプライバシーの確保に努めている。	一人ひとりの人格を尊重し、これまでの生活歴を大切にしている。特にトイレ誘導の声掛けや入浴時の配慮を忘れず、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より会話の中からも希望を汲み取り、本人が思いを表しやすいような楽しく、穏やかな雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人の意思を尊重しながら、出来る限りの希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者とも愛着のある衣類を持参されているため、本人の好みを優先している。又、2ヶ月に1回施設内で理美容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食事の後片付けなど個々の能力に応じて一緒に行っている。ベビーカステラなどのおやつも一緒に作っている。	おかずは病院の厨房で業者が調理し、ご飯はそれぞれのユニットで炊いている。毎月行事食の日を設け、季節毎に美味しい料理が振舞われる。職員と一緒にプリン・おはぎ・ケーキなどのお菓子作りをするのも楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつの摂取量は記録しており、入浴や散歩後などこまめな水分補給を心掛けている。又、医師指示により栄養補助食品や高カロリー食品を取り入れて個々の状態に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助により、清潔保持に努めている。又、隣接する歯科への定期検診など支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、声掛けや誘導によりトイレでの自立排泄に向けた支援を行っている。	トイレで立ち上がりが無理になればオムツを使用するが、それまでは殆どがリハビリパンツを使用している。時間や利用者の仕草を見ながら声掛けし、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し、飲み物やおやつを工夫しており、散歩、廊下歩行、体操、新しく足踏み機も取り入れ個々に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴時間は決めている。。入浴が好きの方には日数を増やしたり、入浴剤も使いながら個々にあった支援している。	今年度は浴槽を跨げない利用者のための座面回転器具を購入し、好評である。利用者は週2～3回、午前中に入浴剤を入れたお風呂にゆっくりと浸かり職員と一対一で会話をしながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の状態を把握し、生活リズムを整えるよう努めている。又、昨年より昼食後の昼寝と103歳の方には朝食後に臥床の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については理解しており、服用介助、確認をしている。症状に変化ある場合はその都度、看護師、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を常に考え実行している。又、好きな事、出来る事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年のお盆は1名の方が家族と外出された。これから涼しくなるので、色々計画を立てていきたい。	気候のいい日にはできるだけ事業所の敷地内に出て散歩をしたり、花を観たり水やりの手伝いをするなどしている。コロナ禍以降はアピタで買い物したり、「なばなの里」には何度も出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を所持、管理している利用者はいない。本人の希望があれば家族の同意のもと金銭を所持してもらうことは可能な体制としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によって、電話のやり取りや手紙、年賀状などの支援を行っている。携帯電話を使用されている方には重電、管理の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせる様に室温、湿度の管理をしている。季節の花と一緒に活けたり、塗り絵、貼り絵を展示して生活感、季節感が出るようにしている。	リビングの大きな掃き出しの窓からは中庭の緑や干した洗濯物が見え、家庭の雰囲気がある。中庭には自家菜園がありサツマイモが作られていた。近々保育園の園児たちが芋ほりに来る予定である。季節感を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の椅子とは別に、ソファやテレビを置き、好きな場所で会話を楽しみゆっくりと過ごせる居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や好みの物をお持ちいただき、思い出を想起させ出来る限り生活スタイルが変わらないよう居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド・エアコン・洗面台・押し入れがあり、それ以外の家具は自宅から使い慣れた物を持ち込んでそれぞれ個性のある居室となっている。手作り作品や家族の写真を飾り、綺麗に整頓された居心地のいい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居当初は混乱が見受けられることもあるが、生活の定着により徐々に解決されている。安全面では転倒防止に家族と話し合いクッションマットを床に設置している方もいて、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		